

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪学院大学短期大学部
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカガクインダイガクタンキダイガクブ
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F227310108543
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立短期大学
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	短期大学部・経営実務科
	担当教職員名・役職	後藤 晃範・教授/学科長、中山 麻耶・講師、赤穂 幸子・講師
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	23
	受入企業等数	15
	受入企業等名	センコー株式会社、フルタニ産業株式会社、株式会社コノエ、株式会社ダイビ、株式会社たけでん、大阪石材株式会社、株式会社太陽ビルマネージメント 他
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事  2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	実習先企業は、本学科での学びにリンクした業態を選定しており、短大での学習をインターンシップに活かし、さらにインターンシップで学んだことを短大での学習に活かすというサイクルとなっている。業態としては事務やIT系を中心とし、多彩な形態の企業に協力を得て、社員に準じた職務を体験することにより自身の能力や適性のチェックを行うとともに、職業意識の養成を図っている。実際の企業での実習は、実務経験、企業理解を深めるためのオリエンテーション、振り返り・プレゼンテーションなど、就業体験を中心とした企業毎に工夫されたプログラムで行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	短期大学 1年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	短期大学 2単位

	2-5.上記回答内容に関する詳細	必修科目として、正規の教育課程の中に位置づけられている。所定の時間数の実習だけでなく、事前指導や事後指導、実習企業も参加する報告会での実習報告を完了することで、単位認定される。実施期間は7月下旬～9月中旬（夏期休暇中）
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
		4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	インターンシップ報告会に向けての準備
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	報告会では、実習成果や今後の目標などを学生自身がパワーポイントで作成し、プレゼンテーションをおこなう。	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前学習ではインターンシップの意義、目的、成果等の講義を実施し、直前指導ではマナー講師による身だしなみ、挨拶、電話、メール等のビジネスマナーを実施している	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習中に作成する毎日のレポートを元に最終的なレポートを作成し、企業からのコメント・評価と併せて、『インターンシップ報告書』の作成をおこない、学生へのフィードバックが行われる。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	実習期間中に企業へ訪問し、受け入れ先の意見を聴き、本人の意見や悩みを聞き、問題点解決相談に乗っている	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（ルーブリック）を作成し、事前と事後に自己評価をおこない、その結果を報告書に掲載している。企業からの評価は、レーダーチャートにより可視化することで、自らの課題を明確化し、1年次後期、さらに2年次の学習へ活かせるようにしている
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実習日が連続しているかどうかは企業等により異なる
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	状況により企業のプログラムに変更が生じたり、時間数が足りない場合は、複数の企業にて対応する
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	原則として、10日間以上、60時間以上を確保するに努めている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	実習先企業とは協定を交わし、実習終了後、学生の評価表を提出していただいている。項目は取り組み姿勢、行動力等11項目にわたり4段階での評価に加え、コメントを記入いただき、学生にも返却することで気づきを促すとともに、教職員と学生で共有している
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.osaka-gu.ac.jp/faculty/ogjc/index.html">https://www.osaka-gu.ac.jp/faculty/ogjc/index.html</a>
問	大学等名	大阪学院大学
	担当部署名	キャリアセンター

問い合わせ先	担当者役職名	係長
	担当者氏名	北村 規夫
	電話番号	06-6381-8449
	メールアドレス	<a href="mailto:career@ogu.ac.jp">career@ogu.ac.jp</a>